

情報家電の市場化戦略に関する研究会

～e-Life 戦略研究会～

基本戦略報告書

「e-Life イニシアティブ」

平成15年4月

今後3～5年程度を想定して、情報家電が創出する製品・サービスの具体的なイメージを明らかにするとともに、IT企業の国際競争力の回復・強化を同時に実現するため、情報家電普及に向けて産学官が取り組む課題について、具体的な戦略を策定

(1) 「e-Life イニシアティブ」の目標

2007年までに、我が国の全ての世帯に複数の情報家電が普及・活用されることにより、生活様式を変革

(2) 具体的行動計画

①行動Ⅰ：技術の共通化・標準化の推進

政府と民間が一体となって、機器間の相互接続性や運用性の共通化・標準化を推進
イ. 今後、標準として推進されるべき事項

(a) 家庭内における情報家電の基本構造（情報家電システムの通信方式、データ形式）

.....（中略）.....

(a) 家庭内における情報家電の基本構造（情報家電システムの通信方式、データ形式）

e-Life を実現するに当たっては、まず、我々の最も身近な生活シーンである家庭生活において、技術の共通化・標準化を推進することが、喫緊の課題である。

家庭内における情報家電の用途や生活シーンを踏まえると、家庭内のネットワークは、以下の4つの領域に分類される。

(i) デジタルAV領域（例えば、テレビやDVD等による映像・音楽の視聴）

(ii) PC領域（例えば、パソコンを用いた電子メールの送受信）

(iii) 電話／FAX領域（例えば、電話による通話）

(iv) 暮らし環境領域（例えば、冷蔵庫、洗濯機、種々のセンサー等暮らしに密着した必需品）

.....（中略）.....

これら家庭内の情報家電システムの導入は、次のように段階的に進むものと考えられる。

第1段階（現状）は、IP情報家電が登場し、家庭外から携帯電話等でIP接続が可能となる。また、各領域ごとに情報家電間の接続が可能となる。

第2段階（3年後）は、各領域内及びIP情報家電間の接続が充実する。

第3段階（5年後）は、各領域を超えた情報家電間の接続が充実する。

.....（中略）.....

(b) 情報家電のプラットフォーム

e-Life の実現に当たり、情報家電が満たすべき要件としては、家庭内のみならず、自動車での移動空間、駅等の公共施設等幅広い地理的空間で、容易に使用できることが求められている。

これを実現するためには、以下のとおり、情報家電のプラットフォームとして機能する技術の共通化・標準化を早急に図る必要がある。

(i) オペレーティング・システム (OS)

情報家電分野においては、企業の競争は、より上位層（アプリケーション層又はその近く）で行われることとなる。ミドルウェアを支える上で、あるいはハードウェアの性能を引き出す上で、オペレーティング・システム (OS) (※1)が満たすべき要件は、以下のとおりである。

a)安価であること

b)国際的に技術者を確保できること

c)リアルタイム性・安定性に優れること

d)ミドルウェア(※2)の構築が容易であること

e)アプリケーションの開発について、共通のAPI（アプリケーション・プログラム・インターフェース(※3)）が定義されること

f)特定のデバイスに依存しないこと

以上を考慮すれば、情報家電のプラットフォームについては、Linux、TRON 等、オープンソース・ソフトウェア又はオープンなアーキテクチャーを有するソフトウェアが有意な選択肢となり、その開発環境整備を含めた技術開発及び標準化を推進することが重要である。また、今後、オープンソフトに関する知的財産権の在り方についても、検討を行っていくことが重要である。

図4-1：最優先共通化・標準化が実現する世界

